

# 第10章 評価書の作成にあたって準備書の記載内容を 修正した事項及びその理由

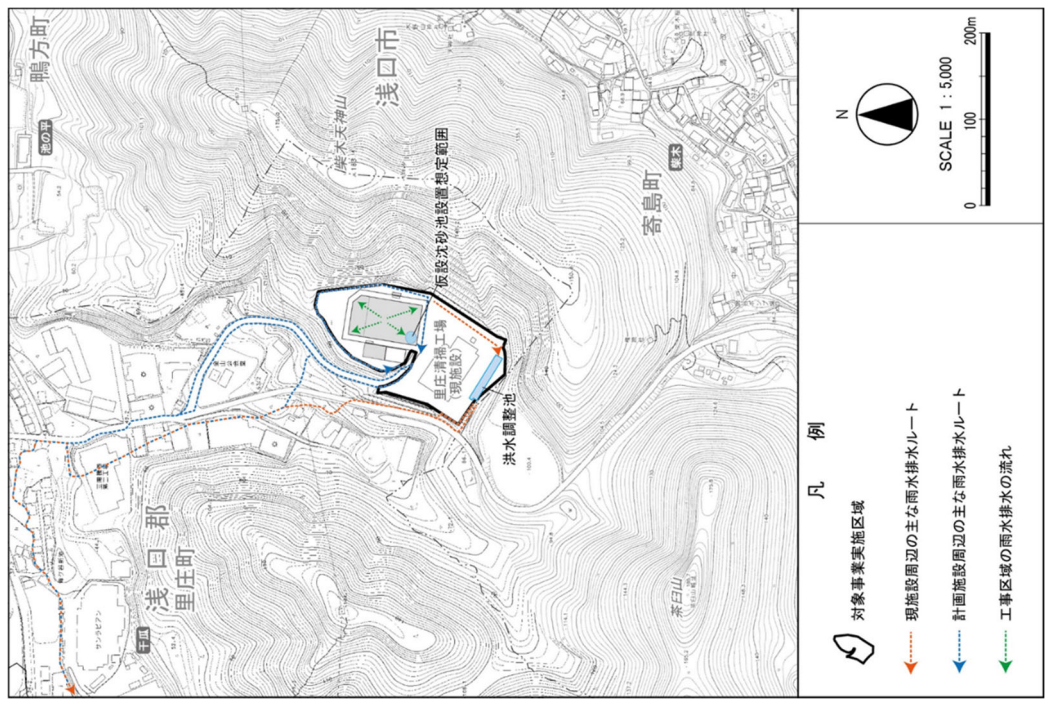
環境影響評価準備書の記載事項から評価書において修正した事項について、修正箇所、内容、理由等を以下に示す。

なお、誤字等の軽微な修正や、図表番号の変更等については割愛した。

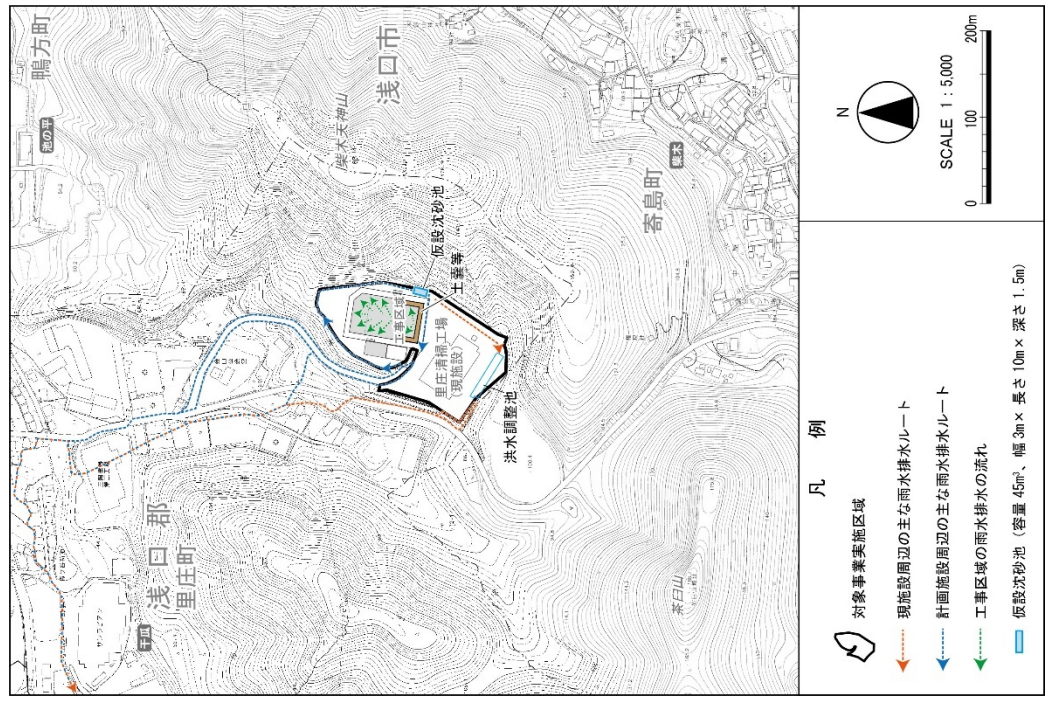
## 「第2章 対象事業の目的及び内容」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
2	2-2 対象事業の目的	また、最終処分場については井原市内に令和4年度供用に向け建設中である。	また、最終処分場については井原市内に令和4年3月に竣工し、令和4年4月から供用を開始している。	井笠広域一般廃棄物埋立処分場が令和4年4月に供用開始となったことから、これを反映した。
	2-3-1 対象事業実施区域の位置	令和4年度に岡山県西部環境整備施設組合によって解体予定となっている。	令和4年6月に岡山県西部環境整備施設組合によって解体・撤去工事が完了している。	対象事業実施区域内のストックヤードについては、令和4年6月に解体・撤去工事が行われたことから、これを反映した。
11	図2-3.4	記載なし	生活系排水への供給として「上水」を、プラント系排水への供給として「上水または地下水」を記載した。雨水排水の経路として、「洪水調整池」または「仮設沈砂池」を経由するよう記載した。	供給部分を記載し、排水経路を明確にした。
16	5. 排水計画	工事中における雨水排水については、工事区域から発生する濁水は、工事区域下流側に仮設沈砂池を設置して、濁水処理したのちに既設の雨水排水路（道路側溝）に排水する計画である。	工事中における雨水排水は、仮設沈砂池（容量：45m <sup>3</sup> 、幅3m×長さ10m×深さ1.5m）において、濁水処理したのちに既設の雨水排水路（道路側溝）に排水する計画である。なお、工事区域南側は、濁水が雨水排水経路に直接流出しないように、土嚢等を設置するなどの対応を行う。	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したためその内容を明記した。
17	図2-3.7	121 ページ図参照	121 ページ図参照	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したため、図2-3.7中の仮設沈砂池の設置位置を変更した。また、これに伴って、工事区域及び周辺の雨水排水の流れも変更が生じたため、反映した。

準備書記載事項



評価書記載事項



「第5章 環境影響評価の結果」

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
42	(2) 環境保全措置	車両の維持管理： 車両の維持管理を徹底する。	車両の維持管理： 車両の維持管理を徹底し、常に良好な状態で使用することで環境への負荷を低減する。	準備書に対する知事意見 (1 総論評価 (3) 住民への適切な周知等について) に対応して、環境保全措置の内容が明確になるよう修正した。
65	1) 濁水流出量及び濁水濃度表 5-5.7	記載なし	施工計画が進捗したことにより、仮設沈砂池の設置位置・規模・構造等が具体化したためその内容を記載し、目標濁水濃度を達成するために必要な仮設沈砂池容量を十分満足することを記載した。また、本事業の仮設沈砂池容量で対応可能となる最大の降雨量についても記載し、評価した。	準備書に対する知事意見 (2 各論評価 (1) 環境の自然的構成要素の良好な状態の保持 (イ 水環境) に対応して、仮設沈砂池の具体的な規模・構造等を踏まえて、予測・評価を行った。
71	1) 重要な種の確認状況	現況調査で確認された重要な種は表5-7.3に示す <u>13種</u> であった。	現況調査で確認された重要な種は表5-7.3に示す <u>14種</u> であった。	準備書段階では、目視による同定及び確認された環境よりオオコオイムシと判断していたが、専門家より、コオイムシの可能性があると指摘を受けた。そこで、解剖して吻等の器官を詳細に確認した。その結果を、県内別地域のコオイムシと比較したところ、コオイムシであることを確認した。本種は重要な種に該当することから、現況調査結果を修正した。また、予測・評価を行い、その内容を記載した。
	表 5-7.3	124 ページ表参照	124 ページ表参照	同上
72	表 5-7.4 (1)	125 ページ表参照	125 ページ表参照	準備書に対する知事意見 (2 各論評価 (2) 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全) に対応して、工事の実施及び施設の供用に係る影響要因に伴い発生する騒音・振動がミサゴ及びハチクマの繁殖活動へ与える影響を予測・評価し、その結果を記載した。また、土地の改変に伴う濁水が水域で確認される重要な種へ与える影響についても予測・評価し、その結果を記載した。

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
73	表 5-7.4 (2)	126 ページ表参照	126 ページ表参照	水域で確認された動物の重要な種について、土地の改変による濁水の影響を予測し、結果を記載した。
73	表 5-7.4 (2)	記載なし	コオイムシに係る予測結果を表 5-7.4 (2) に記載した。	準備書段階では、目視による同定及び確認された環境よりオオコオイムシと判断していたが、専門家より、コオイムシの可能性があると指摘を受けた。そこで、解剖して吻等の器官を詳細に確認した。その結果を、県内別地域のコオイムシと比較したところ、コオイムシであることを確認した。本種は重要な種に該当することから、現況調査結果を修正した。また、予測・評価を行い、その内容を記載した。
74	(2) 環境保全措置	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定  内容:事業計画上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定する。	種類:地域の植生に配慮した植栽種の選定及び適切な維持管理の実施  内容:事業計画上実施することとしている敷地境界の緑化には、地域の植生に配慮した植栽種を選定し、 <u>植栽後は適切な維持管理を実施する。植栽種は、必要に応じて、植生の専門家による指導のもと決定する。</u>	準備書に対する知事意見 (2 各論評価 (2) 生物の多様性の確保及び自然環境の体系的保全 イ植物) に対応して、予測結果を踏まえて検討した環境保全措置として、植栽の維持管理及び植栽種の選定方針を記載した。
78	(2) 環境保全措置	同上	同上	同上
83	(2) 環境保全措置	同上	同上	同上

(次頁に続く)

頁	位置	準備書記載事項	評価書記載事項	理由
96	(1) 予測	<p>焼却残渣については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、<u>現在整備中の処分先の最終処分場</u>に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、<u>現在整備中の最終処分場</u>の次に整備する最終処分場（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画である。</p> <p>なお、<u>現在整備中の最終処分場</u>の状況は表 5-12.7 に示すとおりであり、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。</p>	<p>焼却残渣については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、<u>令和4年4月より供用を開始した井笠広域一般廃棄物埋立処分場</u>に搬入し適切に処分を行う。なお、本事業の稼働期間中に埋立完了となった場合には、<u>井笠広域一般廃棄物埋立処分場</u>の次に整備する最終処分場（以下、「次期最終処分場」）に埋立を行う計画であり、次期最終処分場の詳細については、今後計画的に検討し事業を進める計画である。</p> <p>なお、<u>井笠広域一般廃棄物埋立処分場</u>の状況は表 5-12.7 に示すとおりであり、焼却残渣は適正に処理・処分することができるものと予測する。</p>	井笠広域一般廃棄物埋立処分場が令和4年4月に供用開始となったことから、これを反映した。
97	2) 施設の稼働	計画施設の温室効果ガスの年間排出量は既存施設に比べ <u>65%</u> 程度に減少すると予測される。	計画施設の温室効果ガスの年間排出量は既存施設に比べ <u>62%</u> 程度に減少すると予測される。	見直しを行い、正しい値に修正した。
98	表 5-13.3	126 ページ表参照	126 ページ表参照	同上

頁	71		
位置	表 5-7.3		
準備書記載事項			
	分類	確認種数	種名
	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ
	両生類	1種	セトウチサンショウウオ
	昆虫類・クモ類	<u>1種</u>	モンスズメバチ
陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属	
評価書記載事項			
	分類	確認種数	種名
	鳥類	8種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ
	両生類	1種	セトウチサンショウウオ
	昆虫類・クモ類	<u>2種</u>	<u>コオイムシ</u> 、モンスズメバチ
陸産貝類	3種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属	

頁	72		
位置	表 5-7.4 (1)		
準備書記載事項	種名	予測結果	
		<工事の実施> 土地の改変	<存在及び供用> 施設の存在
	ミサゴ	対象事業実施区域内には本種の採餌環境は存在しない。また、樹林の改変も行わないため、繁殖活動に影響しない。	計画施設の煙突高さは現施設と同程度であるため、飛翔への影響は小さい。
	ハチクマ	対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。	対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。
評価書記載事項	種名	予測結果	
		工事の実施	存在及び供用
	ミサゴ	<p>&lt;建設機械の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 70dB 程度、振動寄与レベルで 30dB 程度である。また、対象事業実施区域から営巣地までの距離は約 1km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;工事用車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 200m 離れることから影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域内には本種の採餌環境は存在しない。また、樹林の改変も行わないため、繁殖活動に影響しない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 計画施設の煙突高さは現施設と同程度であるため、飛翔への影響は小さい。</p> <p>&lt;施設の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 45dB 程度、振動寄与レベルで 20dB 程度である。また、営巣地までの距離は約 1km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;廃棄物運搬車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 200m 離れることから影響は極めて小さい。</p>
	ハチクマ	<p>&lt;建設機械の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 70dB 程度、振動寄与レベルで 30dB 程度である。また、対象事業実施区域から営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;工事用車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 1km 離れることから影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;土地の改変&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p>	<p>&lt;施設の存在&gt; 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。</p> <p>&lt;施設の稼働&gt; 騒音・振動の予測結果より、対象事業実施区域から約 200m 地点での予測値は騒音寄与レベルで 45dB 程度、振動寄与レベルで 20dB 程度である。また、営巣地までの距離は約 1.3km とさらに離れるため影響は極めて小さい。</p> <p>&lt;廃棄物運搬車両等の走行&gt; 騒音・振動の予測結果より、車両走行ルート of 道路端における予測騒音レベル・予測振動レベルは環境保全目標を満足しており、そこから営巣地までの距離はさらに約 1km 離れることから影響は極めて小さい。</p>

頁	73		
位置	表 5-7.4 (2)		
準備書記載事項	種名	予測結果	
		<工事の実施> 土地の改変	<存在及び供用> 施設の存在
	セトウチサンショウウオ	対象事業実施区域において本種は確認されておらず、影響はない。	本事業によって、本種の生息環境条件の変化は生じないため、影響はない。
評価書記載事項	種名	予測結果	
		工事の実施	存在及び供用
	セトウチサンショウウオ	<土地の改変> 対象事業実施区域において本種は確認されておらず、濁水が生息地点に流入することはないため影響はない。	<施設の存在> 本事業によって、本種の生息環境条件の変化は生じないため、影響はない。

頁	98					
位置	表 5-13.3					
準備書記載事項	発生要因		温室効果ガス (tCO <sub>2</sub> /年)			
			既存施設			計画施設
	里庄清掃工場	井原クリーンセンター	倉敷西部清掃施設組合清掃工場			
	排出量	廃棄物運搬車両の走行	411	318	56	1,449
		ごみの焼却	9,432	18,177	1,167 注)	23,384
		機械等の稼働 (電気使用)	1,998	1,132		3,426
		機械等の稼働 (燃料使用)	135	70		89
		小計	11,976	19,697	1,223	28,348
	合計			32,896	28,348	
	削減量	発電	0	0	0	7,835
	収支 (増加-削減)				32,896	20,513
	評価書記載事項	発生要因		温室効果ガス (tCO <sub>2</sub> /年)		
既存施設				計画施設		
里庄清掃工場		井原クリーンセンター	倉敷西部清掃施設組合清掃工場			
排出量		廃棄物運搬車両の走行	411	318	56	1,449
		ごみの焼却	18,177	9,432	1,167 注)	23,384
		機械等の稼働 (電気使用)	1,998	1,132		3,426
		機械等の稼働 (燃料使用)	135	70		89
		小計	20,721	10,952	1,223	28,348
合計				32,896	28,348	
削減量		発電	0	0	0	7,835
収支 (増加-削減)				32,896	20,513	